

vol.6 /  
MONOKOI  
ものづくり  
ものづくりに恋をした

ものづくりに恋をしてみませんか。  
佐賀県が「ものづくり」の魅力を  
あなたにお伝えします。  
きっとステキな出会いがあるはず。

**セイブ** 1964年創立。電柱や鉄塔に備えられた  
変圧器などに用いる碍子を製造する。  
陶都・有田で培われた高品質の碍子に定評があり、国内外  
の電機メーカーから注文がくる。その数、年間約360種、  
47万個に上り、アジアや南米など世界各国でも活用され  
ている。従業員数65人。西松浦郡有田町南原甲。

有工生が行く！すごいぞ！佐賀のものづくり

# セイブ 「明るい暮らしを支える」

県内のものづくり企業を工業高校生が見学し、その魅力や  
強みを若者目線でレポートします。今回の訪問先は、送電線に  
欠かせない部品である碍子(がいし)を製造する会社「セイブ」  
(有田町)。有田工業高校セラミック科2年の松尾亜弥果さん  
と電気科2年の鈴木椋斗さんが訪ねました。



ありがとうございます！  
ございました～！

田中敏治取締役管理部長

最初は「機械工場」というイメージ  
がありましたが、実際見学して  
みると、地元・有田の「窯元」とほとん  
ど同じ製造工程で、親しみが持てま  
した。工業用品でも芸術品でも、も  
のづくりへの情熱とプライドは変  
わらない。こんな会社で働いてみた  
いと、あらためて思いました。

成形には1ミリ以下の誤差も  
許さない、高い技術が求められ  
ます。その技と勤が身に付くま  
でに、10年かかるそうです！「複  
雑で難しい形の碍子を完成させ  
た時はうれしいし、また違うも  
のに挑戦したくなる」と製造部  
の鹿さん。つねにチャレンジを  
続ける職人魂を感じました。  
最後の検品も、大切な仕事で  
す。私たちが見てもよく分から  
ないキズや色むらも、担当者は  
決して見逃しません。小さなキ  
ズが一つでもあれば、電気の質  
が悪くなり、停電などの原因に  
なりかねないからです。「みんな  
の暮らしを支える、電気の安定  
供給に貢献したい」という使命  
感に感動しました。



職人技で社会に貢献

外にも内にも  
ついている!!



鈴木椋斗さん

松尾亜弥果さん

年間  
360種も製造！

つくっているもの



電柱や鉄塔に必ずついている不思議な形の白い器具。この正体は陶器製の絶縁材「碍子(がいし)」だ。電線を走る電流が地表や鉄塔に流れることを防いで、電気の安定供給を支えている。碍子をつねに雨風や太陽光にさらされるため、高い強度と絶縁性能が欠かせない。

普段何気なく目にする碍子ですが、一つの電柱でも約15種類の碍子  
が使われていると聞いて驚きました。  
しかも電柱や鉄塔によって、その  
種類や数も違ってくるそうです。セ  
イブが作る碍子は、年間約360種  
類！発注するメーカーの図面や仕様  
に合わせて、素材や成形方法を変え  
ながら作ります。特に、生地を円柱状  
に押し出して、乾燥させてから旋盤  
機で削る成形は、日本ではセイブだ  
けの独自の技術。最初に乾燥させる  
ため寸法が合わせやすく、スピー  
ディーに仕上げられるのが特長で  
す。